

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和4年2月14日
【四半期会計期間】	第39期第3四半期（自 令和3年10月1日 至 令和3年12月31日）
【会社名】	株式会社ハーバー研究所
【英訳名】	HABA LABORATORIES, INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 宮崎 一成
【本店の所在の場所】	東京都千代田区神田須田町一丁目24番地
【電話番号】	03-5296-6250（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役財務・経理部担当 梅蔭 武
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区神田須田町一丁目24番地
【電話番号】	03-5296-6250（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役財務・経理部担当 梅蔭 武
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第3四半期連結 累計期間	第39期 第3四半期連結 累計期間	第38期
会計期間	自令和2年4月1日 至令和2年12月31日	自令和3年4月1日 至令和3年12月31日	自令和2年4月1日 至令和3年3月31日
売上高 (千円)	10,332,029	9,558,459	14,307,709
経常利益又は経常損失 () (千円)	147,586	480,865	250,688
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 () (千円)	87,081	529,325	216,419
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	86,981	527,433	217,562
純資産額 (千円)	11,734,649	11,375,851	12,039,071
総資産額 (千円)	17,162,912	15,936,047	17,441,060
1株当たり当期純利益又は1株当たり四半期純損失 () (円)	23.02	139.98	57.23
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	68.4	71.4	69.0

回次	第38期 第3四半期連結 会計期間	第39期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自令和2年10月1日 至令和2年12月31日	自令和3年10月1日 至令和3年12月31日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 () (円)	30.35	17.15

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、第38期第3四半期連結累計期間及び第39期第3四半期連結累計期間については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。第38期連結会計年度については、潜在株式が存在しないため、記載していません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものです。
なお、第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 令和2年3月31日）等を適用しております。
これに伴い、当第3四半期連結累計期間における売上高は、前第3四半期連結累計期間と比較して大きく減少しております。
そのため、前第3四半期連結累計期間と収益の会計処理が異なることから、以下経営成績に関する説明において増減額及び前年同期比（％）を記載せずに説明しております。
詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(会計方針の変更)」に記載のとおりであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国内外における新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い、引き続き経済活動の制約等による消費マインドの冷え込みが長期化しており、依然として先行き不透明な状況が続いております。令和3年10月に緊急事態宣言が解除となり、経済活動再開に伴う消費活動の持ち直しが期待されたものの、その後国外での新たな変異株の感染拡大を受け、国内における更なる感染拡大による影響に留意が必要な状況となっております。

このような状況の下、当第3四半期連結累計期間の当社グループ連結売上高は、9,558,459千円となりました。本年度も昨年度に引き続き、特定の地域エリアでの広告戦略の最適化、TVC・ネット広告・プロモーションを行ってきております。品目別売上の基礎化粧品は6,547,880千円、メイクアップ化粧品は713,552千円、トイレタリーは425,104千円、栄養補助食品・雑貨等は1,705,746千円となりました。

販売ルート別売上では、通信販売が5,274,179千円、百貨店向卸売が812,402千円、その他卸売が3,130,353千円、直営店は341,520千円となりました。

売上原価は、3,064,962千円となりました。販売費及び一般管理費は、広告宣伝・販売促進費が2,610,257千円、その他経費が4,388,250千円、合計6,998,507千円となっております。

これらの結果、営業損失は505,010千円、経常損失は480,865千円、法人税等調整額25,222千円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は529,325千円となっております。なお、収益認識基準等の適用により、当第3四半期連結累計期間の売上高が470,927千円減少、販売費及び一般管理費は469,306千円減少し、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失がそれぞれ1,620千円増加しております。

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)
売上高	10,332,029千円	9,558,459千円
営業損失()	147,780千円	505,010千円
経常損失()	147,586千円	480,865千円
親会社株主に帰属 する四半期純損失 ()	87,081千円	529,325千円
売上高営業利益率	1.4%	5.3%

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第3四半期連結累計期間については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、増減は記載しておりません。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、112,643千円です。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因

当社グループの売上高は化粧品等に関連する売上です。化粧品業界全体では、個人消費の伸び悩みなどからマーケットが拡大しない状況が続く中で、消費者ニーズの多様化、価格の二極化、新規参入企業の増加などにより、企業間の厳しい競争が続いています。

このような経営環境のもと、当社グループが安定的に成長するには、新規顧客を効率的に増やしていくこと及び研究開発に力を入れ多様化した消費者ニーズに対応し顧客満足度の高い、製品・サービスを提供していくことが、重要と考えています。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資金の状況

当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は5,521,044千円となり、前連結会計年度末に比べ、142,582千円減少しました。

財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比較して1,038,248千円減少し、10,275,322千円となりました。これは主として、現金及び預金、商品及び製品が減少したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比較して466,764千円減少し、5,660,725千円となりました。これは主として、有形固定資産及びソフトウェアが減価償却により減少したことによるものです。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比較して602,118千円減少し、2,850,534千円となりました。これは主として、未払金が増加したものの短期借入金が減少したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比較して239,674千円減少し、1,709,661千円となりました。これは主として、長期借入金が減少したことによるものです。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比較して663,219千円減少し、11,375,851千円となりました。これは主として、利益剰余金が減少したことによるものです。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000
計	10,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (令和3年12月31日)	提出日現在発行数(株) (令和4年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,935,000	3,935,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	3,935,000	3,935,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
令和3年10月1日～ 令和3年12月31日	-	3,935,000	-	696,450	-	812,570

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（令和3年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしています。

【発行済株式】

令和3年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 153,400	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 3,779,100	37,791	-
単元未満株式	普通株式 2,500	-	-
発行済株式総数	3,935,000	-	-
総株主の議決権	-	37,791	-

【自己株式等】

令和3年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
(株)ハーバー研究所	東京都千代田区神田 須田町一丁目24番地	153,400	-	153,400	3.90
計	-	153,400	-	153,400	3.90

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（令和3年10月1日から令和3年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（令和3年4月1日から令和3年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人A & Aパートナーズによる四半期レビューを受けています。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和3年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,663,626	5,521,044
売掛金	1,226,822	1,181,061
商品及び製品	2,094,760	1,506,905
仕掛品	25,932	25,176
原材料及び貯蔵品	1,913,729	1,892,873
その他	415,131	176,254
貸倒引当金	26,432	27,994
流動資産合計	11,313,571	10,275,322
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,064,079	5,074,739
減価償却累計額	2,430,007	2,537,083
建物及び構築物(純額)	2,634,072	2,537,656
機械装置及び運搬具	2,020,298	1,982,176
減価償却累計額	1,487,024	1,562,080
機械装置及び運搬具(純額)	533,274	420,095
工具、器具及び備品	1,241,086	1,232,829
減価償却累計額	978,404	1,013,326
工具、器具及び備品(純額)	262,682	219,502
土地	1,573,134	1,573,134
有形固定資産合計	5,003,164	4,750,389
無形固定資産		
ソフトウェア	479,698	356,060
その他	42,601	29,316
無形固定資産合計	522,300	385,376
投資その他の資産		
投資有価証券	5,307	5,533
繰延税金資産	205,048	170,538
差入保証金	352,737	312,880
その他	38,931	36,007
投資その他の資産合計	602,024	524,959
固定資産合計	6,127,489	5,660,725
資産合計	17,441,060	15,936,047

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和3年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	310,258	384,400
短期借入金	1,100,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	905,982	839,640
未払金	662,539	812,486
未払法人税等	34,033	2,836
未払消費税等	83,740	58,407
契約負債	-	223,615
ポイント引当金	256,611	-
その他	99,488	229,147
流動負債合計	3,452,653	2,850,534
固定負債		
長期借入金	1,913,691	1,663,410
その他	35,645	46,251
固定負債合計	1,949,336	1,709,661
負債合計	5,401,989	4,560,196
純資産の部		
株主資本		
資本金	696,450	696,450
資本剰余金	812,570	812,570
利益剰余金	11,662,635	10,997,523
自己株式	1,135,878	1,135,878
株主資本合計	12,035,776	11,370,664
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	667	824
為替換算調整勘定	2,626	4,362
その他の包括利益累計額合計	3,294	5,186
純資産合計	12,039,071	11,375,851
負債純資産合計	17,441,060	15,936,047

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)
売上高	10,332,029	9,558,459
売上原価	2,910,660	3,064,962
売上総利益	7,421,369	6,493,497
販売費及び一般管理費	7,569,150	6,998,507
営業損失()	147,780	505,010
営業外収益		
受取利息	35	36
受取配当金	169	176
受取賃貸料	1,053	621
助成金収入	1,255	1 25,415
還付加算金	638	1,915
その他	2,606	2,642
営業外収益合計	5,758	30,807
営業外費用		
支払利息	5,048	5,587
その他	517	1,075
営業外費用合計	5,565	6,662
経常損失()	147,586	480,865
特別利益		
固定資産売却益	27,677	1,973
助成金収入	1 139,491	1 90,443
特別利益合計	167,169	92,417
特別損失		
固定資産売却損	-	12
固定資産除却損	342	53,659
臨時休業による損失	2 143,828	2 28,626
特別損失合計	144,170	82,298
税金等調整前四半期純損失()	124,588	470,746
法人税、住民税及び事業税	101,348	33,356
法人税等調整額	138,855	25,222
法人税等合計	37,506	58,579
四半期純損失()	87,081	529,325
親会社株主に帰属する四半期純損失()	87,081	529,325

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)
四半期純損失()	87,081	529,325
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	250	156
為替換算調整勘定	150	1,735
その他の包括利益合計	99	1,892
四半期包括利益	86,981	527,433
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	86,981	527,433
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これによる主な変更点は以下のとおりです。

(1) 純額による収益認識

ポイント利用による売上について、従来は総額を収益として認識し、値引額を販売促進費として計上していましたが、純額で収益を認識することとしております。

(2) ポイント

売上時に付与したポイントについては、従来は未利用分をポイント引当金として計上していましたが、付与したポイントは顧客に対する履行義務と認識し、契約負債を計上し、顧客がポイントを値引として使用したときに売上高に振り替えております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高が470,927千円減少、販売費及び一般管理費は469,306千円減少し、営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失がそれぞれ1,620千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は15,475千円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 令和2年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 令和元年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 令和元年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

一部の連結子会社においては、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当第3四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症再拡大に伴う緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発出、対象エリアの拡大、度重なる期限の延長により、経済活動の制約による消費マインドの冷え込み等の影響を受けております。国内のワクチン接種対応等による経済活動の改善を想定し、当下期には穏やかに回復するとの仮定を置き、会計上の見積りを行っております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症による影響は新たな変異株の感染拡大等依然として不確実性が高く、経済環境等への影響により当社の事業環境に変化が生じた場合には、将来において損失が発生する場合があります。

(四半期連結損益計算書関係)

1 助成金収入

営業外収益に計上されている助成金収入は小諸市工場等立地促進助成金等であり、特別利益に計上されている助成金収入は雇用調整助成金(新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例)等であります。

2 臨時休業による損失

新型コロナウイルス感染症に対する政府、地方自治体からの各種要請等により、百貨店、ショッピングセンター等の臨時休業が行われております。これに伴う店舗の臨時休業期間中に発生した固定費(人件費、減価償却費等)を特別損失として計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)及び臨時休業による損失(減価償却費)は、次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)
減価償却費	489,631千円	524,812千円
臨時休業による損失(減価償却費)	3,989千円	2,092千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自令和2年4月1日 至令和2年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
令和2年5月18日 取締役会	普通株式	151,263千円	40円	令和2年3月31日	令和2年6月8日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自令和3年4月1日 至令和3年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
令和3年5月17日 取締役会	普通株式	151,261千円	40円	令和3年3月31日	令和3年6月7日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自令和2年4月1日 至令和2年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自令和3年4月1日 至令和3年12月31日)

当社グループは、化粧品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しています。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)
通信販売	5,274,179
百貨店向卸売	812,402
その他卸売	3,130,353
直営店	341,520
小計	9,558,454
その他売上高	5
顧客との契約から生じる収益	9,558,459
その他の収益	-
外部顧客への売上高	9,558,459

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和3年4月1日 至 令和3年12月31日)
1株当たり四半期純損失()	23円02銭	139円98銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	87,081	529,325
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	87,081	529,325
普通株式の期中平均株式数(株)	3,781,575	3,781,547

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和4年2月10日

株式会社ハーバー研究所

取締役会 御中

監査法人 A & A パートナーズ
東京都中央区

指定社員 公認会計士 加賀美 弘明 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 永利 浩史 印
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハーバー研究所の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（令和3年10月1日から令和3年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（令和3年4月1日から令和3年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ハーバー研究所及び連結子会社の令和3年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人

の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。